

4. 認知症の症状の変化と支援体制等

認知症はゆるやかに進行し、症状が変化していきます。家族や周囲の方が認知症を理解し、進行に合わせて認知症のある人に対応していくことが大切です。

	気づき (変化が起きた時)	軽度 (日常生活で見守りが必要)	中等度 (日常生活に手助け・介護が必要)	重度 (常に介護が必要)
本人の様子 (症状や行動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何度も同じことを言う、聞く</li> <li>・物忘れがあり、いつも探し物をしている</li> <li>・金銭管理や買い物等、日常生活はおおむね自立している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでできていた家事や用事ができない</li> <li>・金銭管理や服薬管理等ができなくなる</li> <li>・今後への不安や認知症への否定的な思い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物盗られ妄想があったり同じものを買ってきたりする</li> <li>・使いたれた家電が使えない、季節に合った服の選択や着方がわからない、時間や場所がわからなくなる等、身の回りのことに介助が増える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物でないものを食べたり、家族や自分の居場所が認識できなくなったりする</li> <li>・着替えや食事、トイレ等がうまくできず日常生活で常時介助が必要になる</li> </ul>
家族の心構えや準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「様子がおかしい」と思ったら、かかりつけ医や地域包括支援センター等へ早めに相談しましょう</li> <li>・認知症に関する正しい知識や理解を深めておきましょう</li> <li>・本人の不安に共感しながらさりげなく手助けしましょう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できないことや間違いがあっても責めたり否定したりしないようにしましょう</li> <li>・本人の役割を全て奪わず、できることはしてもらいましょう</li> <li>・火の不始末や道に迷う等の事故に備えて安全対策を考えておきましょう</li> <li>・家族や身近な人に理解・協力を求めましょう</li> <li>・今後の生活（金銭や財産の管理等）について話し合っておきましょう</li> <li>・介護者の気持ちを共有できる場所（家族のつどい等）を活用しましょう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・症状が進んでも「本人は何もわからない」ととらえず、表情等から快・不快をくみ取りましょう</li> <li>・一人で抱え込まず、医療や介護サービスを活用しましょう</li> <li>・介護する家族の休息も大切にしましょう</li> </ul>
相談	地域包括支援センター・認知症初期集中支援チーム・認知症疾患医療センター・ケアマネジャー・家族介護者のつどい・各種相談窓口 等			
介護予防	老人クラブ・地域のサロン 等			
介護保険サービス等	総合事業・介護保険サービス（通所型サービス・通所リハビリ 等）			
	介護保険サービス（通所介護・通所リハビリ・訪問介護・ショートステイ・訪問看護・居宅療養管理指導 等）			
医療	かかりつけ医・かかりつけ薬局・認知症疾患医療センター・病院（物忘れ外来 等）			
福祉サービス 安否確認 権利擁護 等	配食サービス・高齢者等見守りシステム・徘徊高齢者等家族支援サービス			
	緊急通報システム		外出支援サービス・家族介護用品の支給・家族介護慰労金 等	
	高齢者見守りステッカー配布事業			
	高齢者見守り訪問事業			
	民生児童委員・老人クラブ・認知症サポーター 等			
	日常生活自立支援事業		成年後見制度	
住まい	自宅・公営住宅・民間住宅・有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅 等			
	グループホーム			
	介護老人保健施設			
	養護老人ホーム		特別養護老人ホーム	